

# *zundare*

2020 No.10

ZUNDARE



*Five senses  
awake magazine*

▶ <b>Editor-in-chief</b>	<i>Index</i>
└─ Jun Otsubo	04 <small>Cover/Model</small> Cham
▶ <b>Creative Director</b>	06 Reckless
└─ Miki Santoh	
▶ <b>Director/Photographer</b>	08 KENGO ASAKURA
└─ Takahiro Morimoto	10 MIKI NAKASHIMA
└─ Hidemasa Yoshino	12 KATHMI
▶ <b>Director/casting</b>	14 PA:LADIN TAICHI
└─ Takahiro Moriyama	16 KUNCHO SYUZO
▶ <b>Photographer</b>	18 Creators Collab
└─ Yuichi Umehara	20 MUNETAKA MATSUMURA
└─ Atsushi Tashiro	22 ZUNDARE ROAD
▶ <b>Writer</b>	24 ZUNDARE 飯
└─ Yuki Nagasawa	26 ZUNDARE 酒
└─ FLASH SHIMADA	28 <small>ZUNDARE NOW</small> KENTA NIIRE
▶ <small>Cover</small> <b>Hair&amp;Make</b>	30 Mousou COLUMN
└─ Fukuoka Belle epoque	32 <small>ZUNDARE NOW</small> YOWA YOSHIKAWA
	34 takayamaPEANUTS

*The guy who can't do anything speaks better.*

# Cham

Instagram@daaaaaaicham

ChamさんのInstagramにも見られる

普段のメイクは独特のアイラインが特徴で、アイラインも含めて自身の顔だという。今回ZUNDAREでは、Chamさんの印象を良い意味で払拭する、他では見ることはできないであろう新たな姿を見せる。

## 今、まだ旅の途中

物心ついたときから自身がゲイであることに気づき、高校1年生の時にカミングアウト。

ゲイというセクシャリティで世間にアウトプットできるものを探し、素直なファッションで自らを表現。

自身のアイデンティティを軸に、モデルやDJ等として活動しており、全てがアウトプットのツールであると考えている。

## コミュニティはどこでもイイ

ゲイだからゲイだけの中にいるのはスタイルじゃない。ジェンダーやセクシャリティ問わず、Chamを必要としてくれる人がいればどこにでも飛び込んでいく。

Cover Photographer @chikuwa91

福岡ローカルを拠点にiPhone/デジタル/フィルム問わず、写真と言うビジュアル表現を探求している。

主にiphone onlyでの創作が得意。

Mobile phone onlyのアート作品を特集したフォトマガジン Shooter magazineのカバー始め、その他雑誌、イベント、企業案件等をiphone onlyで表現することも。

衣装協力 @grape fruitmoon\_tenjin (※新天町に移転しました)

# Dance Unit Reckless

EMIとAKARIの2人組ダンスユニット。  
HIPHOPをベースに女性らしい要素を取り入れたオリジナリティあるダンスが特徴。福岡・九州を始め、全国の様々なイベントに多数出演。  
日本最大級のストリートダンスコンテスト「JAPAN DANCE DELIGHT」VOL.24.ファイナリスト。

AKARI  
@akari\_reckless

EMI  
@emi\_reckless

## 目標曲は、貫く精神

幼い頃それぞれのチームで踊っていたときからお互いの存在を知っていた。  
中高生になって同じ先生からレッスンを受けるようになり意気投合。  
アジアから実力あるダンサーが集まる「GATSBY DANCE COMPETITION」に一緒に出演したのが活動の始まり。  
2人同じ方向へ向かって走り続ける。



Reckless 2nd Stage 突入  
福岡・九州で地盤を固めてきた2人。  
今年から東京に拠点を移し、  
Recklessとしての活動の幅を  
広げていく。  
東京で吸収したことは、福岡に持ち  
帰って伝えていきたいという。ダ  
ンス動画を撮り、魅力をより  
多くの人に発信するのも目標だ。  
2020年はRecklessにとって  
新たな挑戦の年となる。

**KENGO ASAKURA** | FIVE STAR INC. CEO  
Instagram @fskenko

全国にネイルサロンを展開。  
美容業界の新たな仕組み作りを試み、ネイリスト個人と繋がり  
予約できるアプリ「Nailie ネイリー」を考案、全国リリース。  
ユーザーが好みのネイルを探しやすくなるほか  
ネイリストも様々な働き方ができる点等が評判を得て  
現在30万ダウンロードを突破。  
この他、毎月、警固にシーシャバー「chills」をオープンし、人々が集い  
輪を広げられる場を提供する。

喜怒哀楽  
美容業界を怒りと哀しみが無い努力と愛に溢れた世界に

遠い未来より目の前のことを解決する  
将来を見据えて計画的に取り組むというより、  
課題が見つかるたびに一つずつ解決して  
いくのが楽しい。  
美容業界の仕組みは「遅れている」。これまでの  
予約サイトにはないものを常に考え、業界の  
新しい仕組みづくりをしたい

# 九州の仲間は 良き ライバル

東京と福岡を拠点に活動していますが、福岡は  
やっぱり落ち着く。昔、福岡でバーテンダーや  
DJをやっていた、今の会社のメンバーと  
出会ったのもそのとき。九州、特に福岡の人の  
繋がりは強く、お互いが仲間意識、そして  
ライバル意識を持って、負けられないと日々  
切磋琢磨している。そんな出会いを生む場所を  
大事にしたくて、考えた末、辿り着いたのが  
シーシャバー。

若い力、デジタルネイティブの感覚は武器  
ネイリーのスタッフの多くは20代前半。  
若い子たちの発想は驚くべきものが多く、  
逆にアドバイスして欲しい。生まれたときから  
iPhoneがある環境は僕たちには考えられない。  
デジタルネイティブの感覚に少しでも慣れ  
なければ。



書作家  
**Miki nakashima**

Instagram @miki\_usz  
HP <https://miki-nakashima.net>

3歳で筆を持ち、12歳で段の最高峰特待生となる。  
20歳で師範取得。九州とニューヨークを拠点に  
店舗の壁、天井、ウィンドウのデザイン等  
書をアートにした空間を数多く残している。  
その他、ライブパフォーマンスや書を用いた  
タトゥーデザイン、小学生を対象に独自の教材を  
使って習字の指導等、幅広く活躍中。  
最近、書をペイントしたバッグのブランド  
「イエストデイ (Yestoday)」をプロデュース。



遠い昔出会った木との再会

綺麗な湖が頭の中に浮かび、気になってしょうがない。  
写真を検索してその場所を探すと、青森県の十和田湖だと分かり足を運んだ。  
そこで出会った木が「来てくれてありがとう」と  
言ってくれて、ふと思い出す。わたし、ずっと昔  
この木の近くに住んだことがあるんだ。

前世は画家のかんたでした

ランニングシャツに短パンを履いて、スケッチ  
ブックと鉛筆を持った汚い少年。  
名前のかんた。友達がないから虫や花と喋りながら  
絵を描いている。  
彼は大人になって画家になり、ポーランドで個展を  
開いた。  
あるとき船上で銃撃戦に巻き込まれる。

これがわたしの前世。

人にも数字にも色がある

数字にはそれぞれ色があり、掛け算九九は色で覚えた。  
6が青で7が白だから…こんなふうに、人のイメージも  
また色で表わされる。  
これは、オーラとはまた別のもの。  
あの人だけだっけ…赤の人だ！

わたしの家に住む妖精

黒の服を着たおじさんが3人、白い服を着た  
おじさんが1人、天井の近くでキャッキョッと  
騒いで、いつもわたしを励ましてくれている。  
友達が泊まりに来たとき  
この家妖精いない？って聞かれたから、やっぱりいる。



graphiccer  
**KATHMI**

Instagram @iam\_kathmi  
HP: kathmi.com

好きはどんどん深掘りした方がいい

福岡出身のグラフィッカー。現在、東京を拠点に活動中。

イベントやゲーム、店舗の内装やオフィスアート等を手掛ける。

福岡では、警固のダイニングバー「BAR WOOZ」、今月警固にオープンしたばかりのシーシャ(水たぼこ)バー「Chills」の店内のペイントを担当。

この他、2013年に大名で開催された壁画アートイベント「大名アートアクション」では、「丸海屋 福岡本店」の外壁に大型作品を残した。当時大学2年生。



自分の好きに  
相手の好きを  
ブレンド



高校生の頃からWEBに作品を公開しており、ソーシャルゲームやガールズイラスト等の依頼を受けるようになった。

身近にアーティストの知人はおらず、周囲はこの道を進み続けることをそう簡単には受け入れてくれなかったが、WEB上の海外や日本中で自分らしく輝いているアーティストたちの存在が彼女の自信に繋がった。



人は表情によって感情が変化するのが面白く、わたしは人を描くのが好きだ。自分の好きを表現するのももちろんだけど、そこに相手の好きを加える。例えば、誰かにプレゼントをあげるとき相手がどやったら喜んでくれるか考えながら選ぶように、作品も見る人たちが楽しんでくれるよう思いを込める。

# PA:LADIN TAICHI

HP: <https://paladin.twelve-inc.jp>

福岡から弱者を助け正義を貫くメンズ  
アイドルユニット「PA:LADIN」のメンバー。  
美しい顔立ちと高身長というビジュアル、  
キレのあるダンスでファンを魅了する。  
太鼓が得意。ロールモデルは東方神起のユンホ。

ダンスと歌の実力あるアイドルユニット  
として九州No.1を目指す。幼い頃から太鼓の  
舞台に立つ機会があり、人前には出ることは  
慣れているが、今でもどのステージに立つときも  
緊張感を持ち、気を引き締めて臨む。

食事管理、体型管理に気を抜かず、守るべき  
大切なファンたちの前で常にTAICHIでいる  
ことを忘れない。

PA:LADINを初めて見た人の目を惹くような  
存在でありたいと語る。一つのことを突き詰める  
職人精神は、10年以上に渡り叩き続けている  
太鼓で身に付いたものだろう。

大人のデュエリストへ

活動に対してストイックな彼も、ステージから  
降りれば普通の「男子」。アニメやカードゲーム、  
読書を好み、まるで睡眠障害かのようによく  
寝るといふ。最近ではエナジードリンクを  
覚え、活動限界を超えて活動できるようなり、  
遊戯王カードでは、1枚3000円～10000円する  
カードを大人買いする等、成長を見せている。



情熱とハングリ  
ー精神

**長造 薫酒**



蔵人 **富安大二郎**

HP <https://www.kuncho.com/>  
 FB <https://www.facebook.com/クンチョウ酒造-332378117370088/>

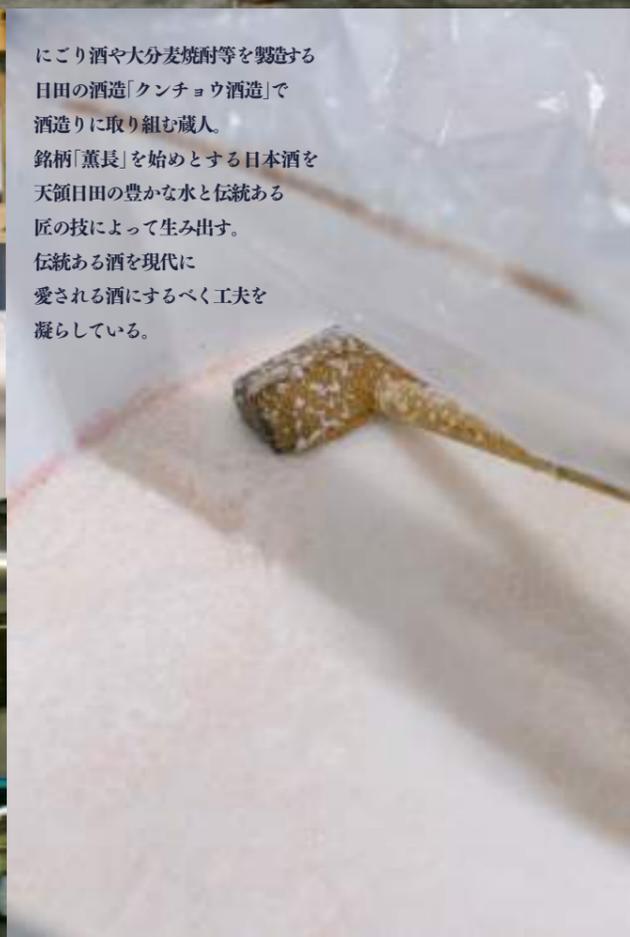


酒と向き合う  
 作るというより  
 育てている感覚  
 まるで生き物と戦っているようだ。

古いものは古いなりに現代風にアップデート  
 今や世界の酒になりつつある日本酒。海外でもコンテストが開催される。取り巻く環境がどんどん変化する中、伝統を尊重しながら、常にベストを求めて酒造りに挑む。

形あるものを造るということ  
 形なきものを商売にする人が増えている時代。  
 文化は日々変化していくものであるが、本来日本人が持つ文化を忘れ去られないよう、残していく努力が必要だ。  
 そのためにも、形として残るものを生み出すことを大事にしたい。

にがり酒や大分麦焼酎等を製造する日田の酒造「クンチョウ酒造」で酒造りに取り組む蔵人。銘柄「長造」を始めとする日本酒を天領日田の豊かな水と伝統ある匠の技によって生み出す。伝統ある酒を現代に愛される酒にするべく工夫を凝らしている。



MIKI SANTOH × ARTIST from Fukuoka

# Collaboration Visual Works

Second guest : Kenji Suetsugu



末次 健二 (すえつぐ けんじ)  
特殊造形・特殊メイクアップアーティスト。1978年佐賀県生まれ。  
福岡での学生時代、美術サークルで立体作品に興味を持ち、制作活動を開始。  
2001年大学卒業後、東京の特殊メイク工房が運営するスクールに参加。  
その後、同工房のアシスタントとして、映像作品や各種イベント展示などの特殊メイク・  
特殊造形制作に関わる。  
2014年より地元九州、福岡でフリーランスの特殊造形・特殊メイクアーティストとして  
活動を開始。現在に至る。  
福岡制作の映像作品やイベント展示物・グラフィック作品などの特殊造形や特殊メイクを  
行う。また、アート活動として各種展示会にも積極的に参加。  
Heart Art in FUKUOKA 2015 ~福岡にアートが染み付く日~ 優秀賞  
Heart Art in FUKUOKA 2015 ~新感覚展~ 奨励賞  
躍動する現代作家展 2017 躍動する現代作家賞

山藤 美樹 (さんとう みき)  
福岡県出身福岡在住。スタイリスト兼アートディレクター。  
2010年より現在雑誌リアルワークを手がける「chikuski」にエディターとして入社。  
その後上京し、雑誌実花が編集長を務める「Mgirl」や世界的タリエイティブジャーナル誌  
「Quotation」(Quotation fashion issue) 等のエディターを務めた後、「chikuski」のリニュー  
アル発行を機にカバーディレクションを手がける。  
雑誌「Zundare magazine」のカバービジュアルも担当。

モデル : Sarah ( 岡本組モデルエージェンシー )



右手には、可愛いスタッフのスケジュール。

『コマツ』  
代表

# 松

munetaka matsumura  
[comatu] owner



# 村



左手には、氷の溶けたハイボール。

# 宗



始まりは、2011年。  
人なし金なし顧客なし。  
そんな大名の小さな片隅だった。

それから5、6年ほどで  
誰もが羨む異常なほどの浸透力で  
あれよあれよと、5・6軒。  
気がつけば、10年も待たずして  
狭きこの福岡まで飛び越えて  
東京の都心部へとその増幅力は拡大した。  
そんな彼のことを側から見ると  
立派な起業家だと語らう。

否、ずっと彼をみてきた人は  
そんな神出鬼没なマジックボーイとだけで  
語れるものではない男だということを知っている。

人が輝けば、店が輝く。  
店が輝けば、街が輝く。

彼は策略家ではない。  
そんな夢物語を心底信じて、  
飄々としたただの情熱家なのだ。

今では奇跡的にしか遭遇できないが、  
共に飲むと、懸命に耳を傾けつつ  
片手に持ったスケジュール表で  
常に愛するスタッフたちの動向を見守っている。

全力で接し、全力で飲み、  
どこで朽ち果てようが、  
業務管理システムは  
スリープ状態で稼働しているのだ。

東京は神田の商店街から  
今夏は日本橋の商業施設へ。

人を愛し、街を愛す。  
松村氏が掲げるコマツ・スピリッツは、  
とどまることを知らない。



# 孝

喧騒はためく大名の近くに位置しながら、  
依然独自の佇まいを保つ「警固本通り」には  
老舗の鮓屋から焼き鳥屋、イタリアン・フレンチ・立ち飲み屋と  
役者揃いの飲食店が立ち並ぶ。

ここは、その通りの奥、  
ある意味明暗を分ける狭間あたりでのある夜のこと。

#10  
『警固本通り』

ZU/DARE  
Road



“おでん”と言えば、  
日本人にとって  
とっても身近なものだろう。が、  
寒い時期に味わうものという  
意外と損な役まわりだったりする。  
しかしこの身近な三文字は  
“田楽”という女房言葉が由来で  
いわば家庭料理、いや日本料理の  
原点ともいえる我々日本人とは  
切っても切り離せない存在でもあるのだ。  
これはそれを意外な論点で  
更に切り込んだ、ちよつといい話。

おでんとは、  
この世の縮図そのもの。



「立方体の世界(地球)と  
向き合う日々なんです。」  
大将の言葉に思い知らされた  
「食」と「人」の関係性。



「玉子は新人、大根は大根役者(笑)でしょ? スジは筋骨、キンチャクは、お袋さん。…こうしてタネの一つ一つに役がある。で、出汁吸うヤツと、出汁を出すヤツ… \*黒と白。は \*陰と陽、てね。どうですか? この中は人生の縮図が詰まってるんですよ。この一つの器に、世界が入ってる。僕は毎日、人生の縮図と向き合ってるんですよ。」

おでんのタネを見事なまでに人生の縮図へ重ね合わせる名言を放ったのは、大将がひとりしきり客人へのおもてなしを済ませ、筆者の隣りに座ってからのことだった。新野修司・40才。20代前半という若さでこのおでん屋という数少ないジャンルに挑み始めは18年。彼の特筆すべき所はその「ブレない姿勢。だ。手を変え品を変え、時代に合わせカメレオンのように業態を変える店が多い飲食という稼業、40にしてこの一途なキャリアは、今とき減多に見受けられるものではない。「おでんとは、日本食の原点。出汁の真髄」と言い切る彼の美学は、他の様々なサブメニューにも現れている。

予期せぬ事だったという昨年のミシュランへの掲載。その称号を囁かなチャームとして、ブレない出汁作りに彼はこれからも動しむことだろう。季節を問わず、ブレない出汁を味わえるこの中堅どころの人生の縮図を、是非とも感じて頂きたい。



新乃(にいの)  
福岡市中央区警固2-10-8  
電:092-751-2400  
営:18:00~24:00(L023:00)  
休:不定休(土日営業)

世界の酒を  
節操なくかき集め  
ノーボーダーに、  
ハイクラス・ナイト!!



すげえ酒  
俺の、私のお酒の嗜み方。  
vol.02

タカ 『旅人bar』店主  
free soul bar  
owner



店内を裸足でバタバタと和が家の如くろつく店主タカ。あまりのリラックスさに驚くと何とパンツも履いてないという。彼はオーストラリアでの20年間という長年の海外ライフを活かし限りなくフリーダムでノーボーダーなバーを昨年、警固の片隅にOPENした。メニューには普段ありつけなさそうな世界各国の酒がズラリと並んでいる。旅にまつわる酒話になるとホワイトボードにワチャワチャと次々何か描き殴っていく。夢中になるとすぐ消すので意味がないらしい。ワーム酒に、水タバコ。キワモノ好きには垂涎のドッキリアイテムも満載。そんなタカに酒の極意を聞いた。「世界のいろんな民族が産んだ酒は知識と人脈、そのすべてを繋ぐもの!!」ビール飲むなら先ずはコレ!と、フィリピンのレッドホースを躊躇なく勧められた。現地では皆キャンディを舐めながら飲むというのが彼にはそれがどうしても馴染めなかつたらしく有無を言わさずイラク産のみまわりのタネを差し出された…。ウム。



営業の前半は、毎晩のように旅にまつわる講習会を開催中。人好き、旅好き、お酒好きなら誰でも参加可。詳しくは上記インスタアカウントをチェック!!

旅人bar  
@bar\_free\_soul  
福岡市中央区警固2-9-16  
ペントハウス2c  
tel:092-231-8432  
営業時間  
18:00-翌1:00(OSO:00)  
不定休(土日営業)



仁禮先生の次回作にご期待ください！！



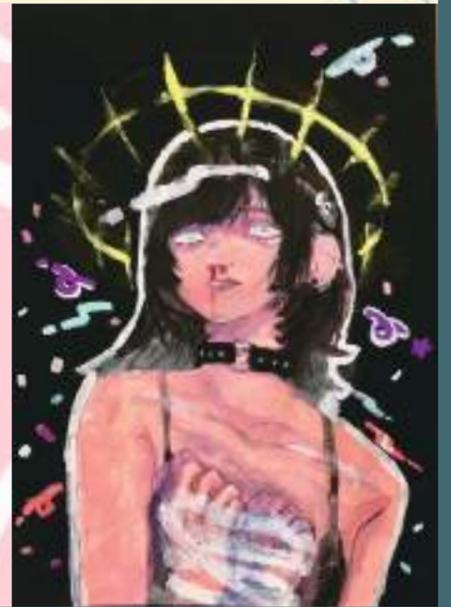
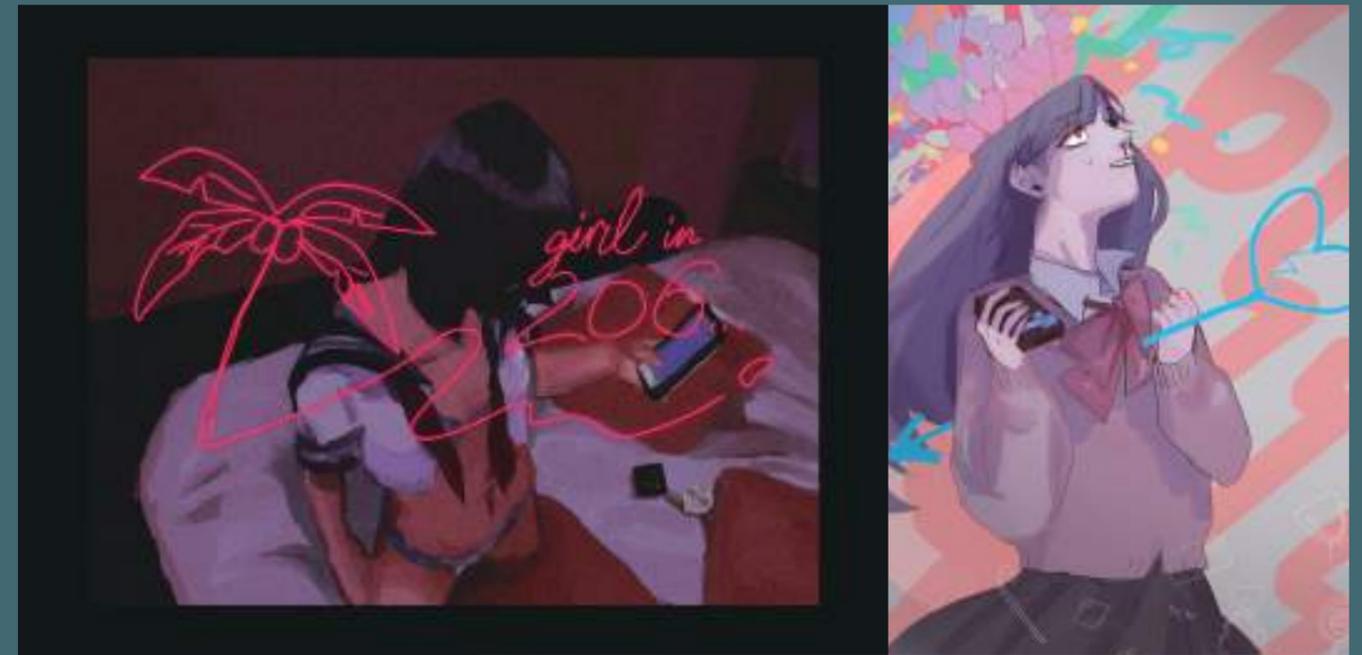


Illustrator  
**吉川 よわ**  
yoshikawa yowa

Twitter@yowasiyskw  
Instagram@nendemoikeru



今年から福岡を拠点にフリーランスとして本格始動。  
イラストの他にもロゴデザイン、グッズデザイン、イベントでのライブペイントなど幅広く活動中。





# *zundare*

2020 No.10

